

市長からのメッセージ
【こちら市長執務室】



電気使用安全月間を PR

兵庫県電気工事工業組合丹有支部のみなさんが8月電気使用安全月間PRのため来庁されました。電気に関する無料相談会開催や公共施設の電気安全点検などを通して啓発活動をされています。



丹波市長 辻 重五郎

去る8月4日、鹿児島県市町村長防災研修会において「丹波市豪雨災害における対応と教訓」と題して、講演をいたしました。主に、丹波市豪雨災害の特徴・特性と被害状況、避難情報の発令や災害対応と教訓、復旧・復興などについて報告して参りました。

丹波市は、災害規模に対する人的な被害が比較的少なく、土砂災害対応モデルとして注目されています。復旧・復興も日毎に進んでおり、今年度末には治山ダムや砂防堰堤など、復旧工事がほぼ完了する予定です。

一重に、被災された方の自助、自治会や関係者の方の共助、多くの関係者の方の復旧・復興に対するご理解とご協力があったることと考えております。

復旧・復興に向かうみなさんの力強い取り組みが評価され、市長として、多くの人に伝える機会を持てたことを誇りに思います。

今回は、この講演で話した市の災害対応や教訓について5点をお

「テーマ」
豪雨災害から2年
「土砂災害からの教訓を活かす」

伝えし、共に安心して暮らせるまちを築くための一助としていただきたく思います。

まず1つ目は、被災者が第一であるということです。被災者の要望などに対して、出来ない理由を探すより、出来る方法を探ることが大切だと考えています。

2つ目は、自助・共助・公助に続く、連携・協働の力の重要性です。災害時に、それぞれの力を有効に機能させるためには、連携・協働することが不可欠です。「自助と共助」「共助と公助」の連携により、相互に足りない部分がカバーでき、新たな力となります。

3つ目は、自覚を持ち、経験を積むことの大切さです。「雨の多い時代」に生きていることを自覚し、平時から経験を積むことが必要です。雨雲レーダーや天気図などで天気を読んだり、土地勘を身に着けたりすることが重要です。

他市への災害応援やボランティア活動の経験も必ず役に立ちます。

4つ目は、自主防災組織とは地

域内の人間関係であるということ。防災施設整備などのハード対策のみで、被害を防ぐことは困難です。地域の自主防災組織など、ソフト対策と組み合わせることで、被害を減らすことができます。良好な人間関係を築くことで、地域の状態が互いに分かり、防災組織がうまく機能します。日頃からコミュニケーションを図り、地域内の被害を減らすという意識を高めることが大切です。

5つ目は、被害を減らすヒント。きっかけはすぐ近くにあるということです。一人ひとりが地域の出来事に関心を持てば、連帯感が生まれやすくなります。そうならば、まちづくりや防災に興味をわき、安心の確保につながります。

これら5点の教訓を市内外に発信し、広げて参りたいと思います。今後とも市民のみなさまのご理解とご協力をお願いいたします。

ゆるキャラグランプリにエントリー HP
丹波竜発見 10周年を祝ってちーたんを応援しよう！

ゆるキャラグランプリ 2016に「丹波竜のちーたん」がエントリーしています。グランプリでは、一昨年1069位/1699位中、昨年は460位/1700位中と順位を上げています。今年は丹波竜発見10周年。ぜひちーたん上位をプレゼントしよう！みなさん投票をお願いします。

■投票期間：10月24日(月)まで
■投票方法：スマートフォン、携帯、パソコンから投票できます。それぞれの端末から1日1票投票できます。



検索方法：「ゆるキャラグランプリ ちーたん」→「エントリー No.434 丹波竜のちーたん」→「投票」
QRコードからもアクセスできます。



図 恐竜・観光振興課(ちーたんの館内) ☎77-1887

フリーマーケット・飲食店 HP
たんばエコフェスタ出店者募集

10月23日(日)丹波市クリーンセンターで開催するリサイクルやごみの減量化をテーマにしたイベント「たんばエコフェスタ」に出店する方を募集します。

- ①フリーマーケット部門
家庭で不用になった古着、食器類、書籍などの販売。
■対象/個人、グループ ※企業による物販は不可。
- ②飲食店部門
市内に店舗を持つ食品販売店の出店。
■対象/飲食店営業許可証などの丹波健康福祉事務所による露店営業許可をお持ちの方。
※テント、ブルーシート、電気、水道、台車、机やイスなどの提供はありません。
■申込方法/環境整備課・各支所に設置の申請書を記入の上、提出してください。
■締切/9月16日(金)
☎環境整備課(丹波市クリーンセンター内) ☎78-9999

丹波市を元気に！
地域おこし協力隊2人が着任

8月1日、丹波市の地域活性化を担う「地域おこし協力隊」に榎木順一さんと天満光さんの2人が着任しました。

2人は、森林資源の活用と保全を目指す「木の駅プロジェクト」の活動を普及するため、イベント企画や広報活動に取り組みます。「木の駅の活動をもっと若い人や、都会の人に知ってもらいたい(榎木さん)」「活動の普及や環境教育などに積極的に取り組みたい(天満さん)」とそれぞれに意気込みを語ってくれました。



着任した榎木順一さん(写真左)と天満光さん(同中央)

NEWS

丹波市産 丹波大納言小豆を使用
京都下鴨神社の休憩処「さるや」で販売中のアイスバーが食べられる！

8月3日から、丹波ひかみ農協の「とれたて野菜直売所」で丹波大納言小豆(丹波市産)を使った「氷菓 氷の花」の販売を開始しました。

京都市で和菓子を製造する、あずき処「宝泉堂」が製造。下鴨神社境内の休憩処「さるや」で、6月1日から販売されています。古田泰久代表取締役社長は「生産地でぜひ食べて欲しかった。小豆のおいしさを感じてもらえる氷菓子。丹波大納言小豆を誇りに思ってもらいたい」と話しました。



アイスバーを試食し、丹波大納言小豆の魅力について話し合う古田代表取締役社長と辻市長